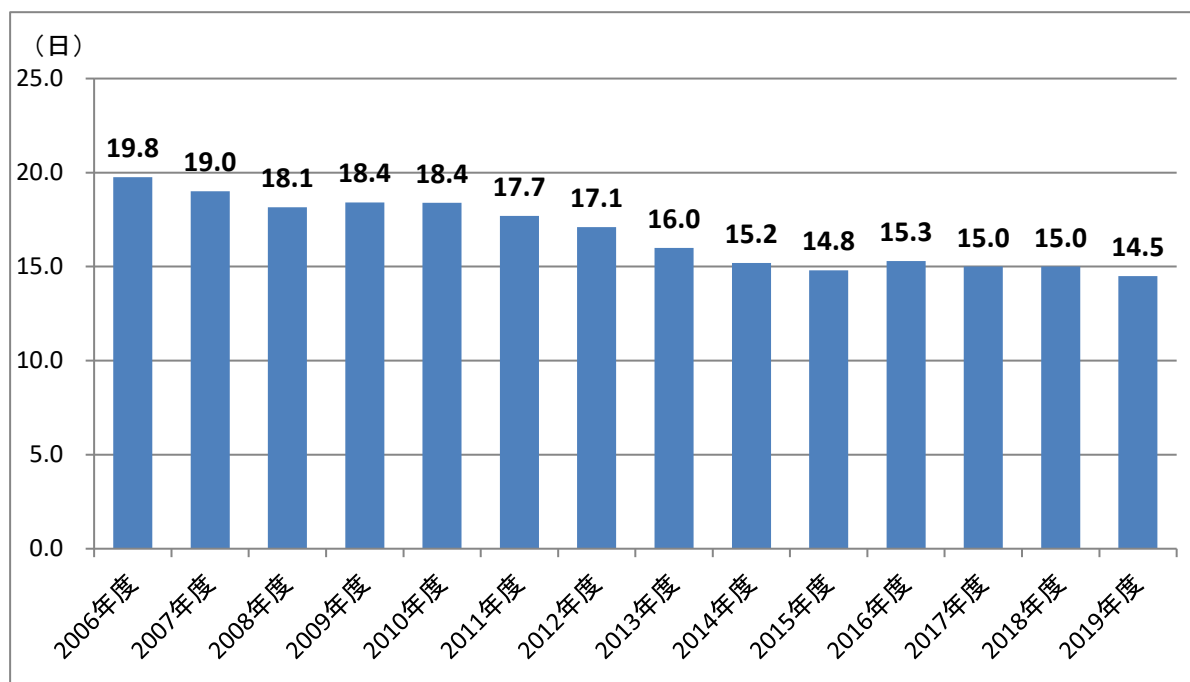


2 9 . 平均在院日数



病床稼働率と同様に病院の経営指標の一つである平均在院日数は、どの施設においても重要な指標として注目される項目である。また、国が打ち出す方針では、病院機能分化として急性期病院の平均在院日数は、更なる短縮を推進する傾向にある。

当院においても2011年度以降、緩やかに短縮しており2015年度には15日以内となった。2016年度において、15.3日と前年度と比較し0.5日増加したものの、2017年度は15.0日と再度減少に転じ、2018年度は横ばいであった。2019年度は前年度と比較し0.5日短縮し、14.5日となった。

急性期病院としての役割を果たすべく、クリニカルパスの利用を推進し、医療の質を担保した上で、在宅復帰できるような適切な在院日数を目指す。

データ提供 医療事務室入院医事課